



「海外の水泳仲間と会うのが楽しみ」

大倉 晃次 (41歳・大阪府)

「アドボケート」(advocate)とは、障害関連では、権利擁護のための活動を支持する人、擁護する人、代弁する人の意味です。この企画では、「セルフ・アドボケート」＝ダウン症のある人たちに、自ら、自分の言葉で、現在の生活についてや思いなどを伝えていただきます。全国からの発信をお待ちしています。

◆11月1日にJDS大阪支部が開催した勉強会「成人期の暮らし」でのご本人と母・幸代さんの発表より

私は41歳になりました。小学校3年生の時分から、ずっと水泳をやっています。色々な大会に出て、たくさんメダルをもらいました。

小学校3年生の時に水泳教室に入りました。兄と弟が先に通っていたからです。その頃は、週に1回だけでしたが、嫌で嫌で・・・泣きながら行っていました。でも、同じダウン症の友達が教室に入って来たので一緒に頑張りました。

小さい頃、体が弱くて、風邪をよくひいていました。でも水泳をはじめてからは、とても体が強くなり、熱が出なくなりました。

水泳はめきめきと上手くなりました。そして楽しくなりました。高校生になると、速く泳げるようになりました。27歳の時、「全国障がい者スポーツ大会」に出場することができました。そして、34歳の時には、世界ダウン症水泳連盟の「ダウン症世界水泳選手権大会」に出場することができました。世界水泳選手権では、ポルトガル、台湾、イタリアに家族で行きました。そして、たくさんのメダルを取ることが出来ました。

その中で、辛いことが一度ありました。それは、腰が痛くて泳げなくなったことです。私はバタフライが得意でしたが、腰の背骨がずれてしまったのです。痛くて辛かったです。それで、台湾大会に出たあとに手術をして、腰にボルトを入れました。1年ぐらい水泳を

休み、リハビリをしました。無事に治ってからはバタフライはやめて、背泳ぎとクロールに変えました。そしてまた、イタリアの世界大会に出ることができました。

仕事は朝6時から12時まで、家の近くのゴルフ練習場で働いています。掃除機をかけたり、窓ふきをしたり、空き缶を集めたり、灰皿を洗ったりしています。月曜日から金曜日は、毎朝5時に起きます。朝の早いのは慣れましたが、少し眠いです。職場の方はとても優しく、色々教えてくださいました。

水泳の大会で世界に行って、世界の友達と会うのが本当に楽しみです。水泳の練習はしんどいけどメダルが取れるとうれしいです。健康にも良いので続けていきたいと思えます。寝る前にはずっと、腹筋と背筋と腕立て伏せのトレーニングをしています。

それから、お兄ちゃんや弟の甥っ子や姪っ子と遊ぶことがとても楽しいです。カラオケが好きで、阪神タイガースの試合を見に行くのが楽しみです。



〈プロフィール〉

2015年11月に41歳になりました。富田林市立寺池台小学校、大阪府立堺養護学校中学校・高等部を卒業しました。最初の職場は、自転車部品工場でした。その後、乳業会社に勤めて、今は、ゴルフ練習場で働いています。